

VOITECH
2020
Summer



目次

女児アニメを見よう	— Anthony	……3
「わすゆ」のアニメと原作から、 勇者と根性について考えてみる	— 柊	……7
オタクの自分語り	— ダイソン	……12
アニメガタリ	— ばちばち☆	……16
私の中のVtuberとVtuber存在	— taki	……19
楽曲十選		……24
クール每振り返り —二〇一九編—		……29
卒園に際して		……32
編集後記		……33

女兒アニメを見よう

Anthony

一. はじめに

昨今、社会情勢がアシなのでおうちに一日中引きこもる方も多いのではないのでしょうか。この記事は暇を持て余している人に長編女兒アニメをオススメすることを目的としています。気になった作品があったら見てみましょう。

二. アイカツ！シリーズ

多分「女兒アニメ」と聞いたときに真っ先に思い浮かぶのはこれでしょう。シリーズ作品としてアイカツ！、アイカツスターズ！、アイカツフレンズ！、アイカツオンパレード！とありますが、最後のオンパレード以外であればどこから見始めてもいいと思います。製作はサンライズです。

二.一. アイカツ！

シリーズ最初の作品です。よく無印と呼ばれます。放送期間が三年半とめちゃくちゃ長いので途中で主人公が交代しま

三. プリティーシリーズ

アイカツと並ぶ女兒アニメの巨頭のひとつ。ゲームセンターの子供向けコーナーにアイカツと並んで筐体が置いてあることも多いです。『プリティーリズム』『シリーズ』『プリパラ』シリーズ、『キラッとプリ☆チャン』の三つに細分化できます。こちらはタシノ「プロ製作です。

三.一. プリティーリズムオーロラドリーム、プリティーリズムディアマイフューチャー

『プリティーリズム』シリーズ二作目と二作目です。略称はそれぞれADとDMでどちらも全五十一話、DMはADの続編です。僕はまだ見ていないので言及しません。

三.二. プリティーリズムレインボーイブ

『プリティーリズム』シリーズ三作目で全五十一話です。略称はRL。前二作とは共通の世界観ですが、別世界線の話となっています。

他の作品と比べて親子関係、家族関係にスポットを当てた話が多いのが特徴です。メイン六人のうち四人が家庭に問題を抱えた状態で話が始まるので後半まで

☆シとかですね。

王道の作品なので最初にみるにはうってつけだと思います。長いけど。

二.二. アイカツスターズ！

シリーズ二作目ですが前作とはかなり毛色の異なる作品です。その中でも特筆すべきは「先輩として引つ張る存在が多い」という点でしょうか。前作では圧倒的な一人の先輩がいましたが、今作ではS4というシステムによって頼れる先輩が増えることでバトンリレーを描きやすくなった結果、人間関係の描写が濃くなったと感じます。また、「男性アイドルが登場する」というのも特徴的です。男女間の関係もある程度描写されるのでそういうのが苦手な方はキツイかもしれません。

こちらの作品も女兒向けとは到底思えない楽曲がたくさんあります。作品ごとの特徴というよりもアイカツというシリーズの特徴のような気がしますね。一話EDでepisode soloを聴いた衝撃は忘れられません。前作よりも特徴的な楽曲が増えているので、楽曲から入るのもいいかもしれません。

途中で前作のキャラクターがゲスト出演する回が二話ありますが、全百話と比較的短めなのでこちらから見始めるのもいいかもしれません。

到底女兒向けとは思えない重いストーリーが展開され続けますが、最後は丸く収まるので安心しましょう。また、『プリティーリズム』シリーズは男性が普通に出てくるので普通に恋愛します。過激な方は頭の片隅に置いておいたほうがいいかもしれません。また、一時期話題になった『キンプリ』はこの作品の続編なのでこれを見ていないと理解できない設定が出てきたりします。

三.三. プリパラ、アイドルタイムプリパラ

世界観の一新を図った新シリーズです。「かしこまー」というセリフは誰もが聞いたことあると思います。それまでは原宿などの現実世界を舞台にしていますが、ここから「パラ宿」「プリパリ」など現実をもじった地名に代わりました。プリパラは全百四十話、アイドルタイムは全五十一話です。

このシリーズの特徴は何といつてもギャグの濃度でしょう。世界が滅亡しかけているシリアスなシーンでさえギャグが挟まるくらいです。「女兒向けカブトボーグ」「ボボボーボ・ボーボボと同格

二.三. アイカツフレンズ！

僕はまだ数話しか見ていないので言及は控えようと思います。全七十六話と短めです。

二.四. アイカツオンパレード！

過去作のキャラが大集合します。主人公が各作品の世界に行くだけでなく、キャラクターたちが本場に「ごちゃ混ぜ」になるのでお祭りとして捉えればそれなりに楽しいと思います。前作を見ていないにこつちを見たら知らないキャラクターがたくさん出てきたのでちゃんと過去作を見てからこつちを見ましょう。ベースの世界観は前作と地続きなので前作キャラの説明が薄いです。

二.五. どこから見？ アイカツ！編

アイカツ！シリーズを今から見ようとしたときの最大のネックは二〇一九年度放送分がdアニメストアなどの動画配信サイトに無いことです。フレンズの五十一〜七十六話とオンパレード全話が相当します。前者はバンダイチャンネルでなら見られますが、後者はレンタル形式で見られませんが、どこから見始めてもいいと書きましたが、この点を踏まえると無印かスターズから見始めるのがいいと思います。

三.五. どこから見？ プリティーシリーズ編

このシリーズは過去作の主人公と同じ姿・似た名前のキャラクターが出てきたり過去作のオマージュがあったりするもので、なるべく最初から見たいほうがいいと思います。とはいっても非常に長いので、興味を持ったりオススメされたりした作品から見始めていいと思います。全話をdアニメストアで見ることができればうれしいですね。三.一. から三.四. のそれぞれが一区切りなので参考になれば嬉しいですね。

四. プリキュアシリーズ

説明不要の長寿シリーズです。二チアケの顔として定着していますね。ただ、後追いで見るのが難しく、動画配信サイトではdアニメストアが七作目の「ハートキャッチプリキュア！」までしか見ることができません。これらの中では六作目の「フレッシュプリキュア！」と七作目の「ハートキャッチプリキュア！」がオススメです。

五・長編女兒アニメを見るうえで気を付けたこと

特にアイカツやプリパラなどの非常に長い作品を短期間で視聴すると、キャラクターが異常な速度で成長しているように感じられて人生が辛くなることがあります。また、人間の脳の処理能力には限界があるので消化不良のまま見続けることにもなりかねません。特にプリパラは長いうえで精神への作用が大きいので用法・容量をしっかりと守った方がいいでしょう。経験則から言うと、最速でも一日に四、五話、二週間程度で一年分を見る程度にした方がいいです。先述しましたが四日でプリパラ二年目を見たら大変なことになりました。

六・最後に

見えない作品について言及しないようにしたら所々穴が開いて見づらくなりました。見えない作品もちゃんと見て出直していきます。

いろいろと書いてきましたが、言いたいことは一つです。女兒アニメを見て幸せになりましょう。

「わすゆ」のアニメと原作から、勇者と根性について考えてみる

柊

はじめに (近況)

みなさんはじめまして、はじめましてじゃない方はお久しぶりです。18(三年生)の柊です。他の人の文を見ると締め切りに追われて泣きながら書いている人が多いみたいですが、この会誌の、本来GWのコミケで頒布するはずがお蔵入りになった原稿たちをウェブ上で公開することとなったというそもその経緯と、あとは編集の立場を濫用してほぐだけみんなの半年後にのんびりぬくぬく書いています。嘘です。そもそもこんなことしている場合じゃないし、あとはめっちゃくちゃ色々と怒られています、後輩に。

さて、今回ほぐが取り上げるのは最近身の回りで謎の人気沸騰中、毎日一回はdアニメの視聴しましたツイート(これをするためにスマホ版dアニメ一瞬開くのめんどいよね)をTLで見かけると話題の「結城友奈は勇者である」シリーズについて、特に「鷲尾須美の章」を中心に書こうと思います。なんで二〇二〇年にもなって原作ノベルが既に絶版になってる

アニメについて書いているのか不思議でありませんが、これには、最近「ゆゆゆ」についてある程度まとまった文章を書くの機会があったのに締め切りギリギリになってまとまりのない駄文を書き散らしてしまった反省と、その後先輩にその文章を見せることを「お願い」されたことにより書き直す必要ができた、という理由があります。そのため、この文章は、締め切りを大大大幅に破った挙げ句に過去に書いたものの流用で済ませてしまおうなどという浅知恵の産物などでは決してなく、むしろ人様の前にお見せする前にできる限り己の駄文に推敲を重ねようとした結果のものです。予めご理解ください。

前提

以下、勇者の章まで(くめゆなども含まれます)の視聴済み前提で進めます。なので不要だとは思いますが一応。

ゆゆ二期の前半にあたる「結城友奈は勇者である」――鷲尾須美の章――(以下

アニメ)は、一期「結城友奈の章」の放送と同時期に電撃 G's magazine で連載されていた「鷲尾須美は勇者である(以下原作)」のアニメ化であり、オリジナル作品であるゆゆゆにおいて今の所唯一原作が存在する部分となっております。「勇者である」のノベルは基本的に、アニメで脚本を担当されていた朱白あおいさんが主に執筆されていますが、一番最初のノベルであるわすゆは原案のタカヒロさんが執筆をされているのが特徴です(わすゆ以後、朱白さんに執筆を依頼するようになったと書籍のあとがき等で度々述べられていますね)。一期でのキーである「東郷美森」「鷲尾須美」が、ノベル展開のわすゆと同時に明かされていったわけで、原作を読むと「これ当時追ってたら顔ヤバかったな」という気持ちになれるわけですが、その同時展開の影響もあるのが原作とアニメでは話の順序なども含め異なっている部分がそれなりにあります。その部分を比較すること、監督はじめアニメスタッフたちの意図を考えてみよう!というのが今回のお話です。

1. 三ノ輪銀という勇者像

さて、前述の通り変更点の多いわすゆですが、まずは勇者の一人である三ノ輪

銀について論じていきます。メインキャラクターであることもあって、作中での銀の立ち回りは基本的に変更はありません。闘って、死にます。が、細かな台詞部分にちらほら変化があり、それを追っていくと、銀を始めとする神樹館勇者組のお役目に対する向き合い方が、原作とアニメでははっきりと描き分けられていることが分かるかと思えます。

アニメ第四話「たましい」での変更(原作の第4話「たたかい」部分)

「動けるのはアタシ一人か……。こりゃあとるべき道は一つかな」「勇者が逃げたら世界は終わっちゃうから、ここは頑張るしかないっしょ(原作)」

「動けるのは……アタシ一人。ここは、怖くても頑張らざるどころだろ(アニメ)」以上は、わすゆ一番の感情シーンであるところの「またね」の直前に銀が他の二人に言った台詞です。「またね」のシーンは原作の挿絵が完全に再現されていて、園子との焼きそばの約束をはじめ第四話でうんざりするくらい積み重ねられてきたあまりにも明確なフラグ描写にオタク達は非常にしんどい気持ちにさせられたことかと思えますが、前後のシーンは細かく改変がされています。原作ではあくまで世界を救う勇者のお役目を行動の動機として迷わず「とるべき道は

1つ) 挙げている銀ですが、アニメでははつきりとお役目に対する恐怖を口に、かつその直前に負傷した須美・園子に血相を変えて駆け寄るシーン(原作はこれに比べるとかなりノリが軽いですが)、別れた後、二人を傷つけたバーテックスらにはつきりと怒りを示しているシーンが追加されています。これによりアニメでは、お役目よりもっと身近な人間達に対する個人的な感情で行動していることが示され、「少を犠牲に多を生かす」神世紀大赦と勇者三ノ輪銀の考え方がよりはつきり区別されているわけですね。

「勇者は、根性！」

また、銀の最期の言葉となってしまう「これこそが！ 人間様の！ 気合つてやつよ!!」(原作) という台詞ですが、アニメでは「気合」の後に「根性とたましい」が追加されています。たましいに関してはサブタイとED曲名の回収になっていて(オタワ、こっこの、好き)、銀個人を象徴する言葉で死んだ後はさっぱり出てこないのが今回は置いておきませんが、「根性」は監督も「勇者である」のテーマにはつきり挙げているのもあって超本質ワードです。分かりやすいところで言うと、勇者の章の最後、大満開勇者パンチで天の神をボコすときに、勇者

部六人のマークが浮かぶ↓天の神に押し戻される↓「勇者は、根性！」&銀のマークが浮かぶ↓押し込んで撃破、となるところですね、わかりやすいところでしょう。俺は五周目くらいになって初めて気づいたけど…。「根性」は作品全体のテーマとなっていて、単語ですが、「勇者は、根性！」という台詞自体は、銀が発言し、その遺志を継いだ勇者二人(と最後の大満開友奈)によって度々発言される。パトン・となっていて、「これが、銀仕込みの根性つてやつよっ!!」(アニメ第五話)「勇者は根性だよ〜ミノさん!」(原作第八話)とか。一期ではおそろく出ていないはず。多分。台詞の変更確認するために銀を何十回も死なせるなら一期もちゃんと見返せばよかったね…。あとはこの「人間様」って台詞、銀のスペア2号であるところの芽吹も使ってる言葉だけど勇者らしくてもいいよね。まとめると「勇者は、根性！」＝三ノ輪銀ということです。

二. 銀から「パトン」を受け取る園子たちの描かれ方

第五話さよなら(原作では第五話さよなら、第六話せいいいに相当)での変更点

銀の葬式からはじまる五話ですが、一行程程度のあっさりしたものであった銀の親族の描写が、アニメでは大幅に追加されています。銀の死を「たいへん名誉なこと」と捉えている親族、式の最中に泣き叫ぶ銀の弟・鉄男はどちらも原作にはいなかったキャラクターです。この対比により、「少を犠牲に多を生かす」という考え方が三〇〇年の歳月でエスカレートしていった余り、最終的に人類補完計画紛いのことをして自分から人間をやめちゃう大赦の大人たちと、その歪んだ現状を打破しようともがき、「人として生き」たがっている勇者ら子どもたちの対立の構図が鮮明に打ち出されています。特に鉄男・東郷・芽吹たちなんかははつきりと神を否定するちよつと危ない発言をしているのでとてもわかり易いです。この二項対立でちよつと特殊な立場なのは友奈シリーズと安芸先生ですが、それについては後述。

また、葬式の真つ最中に襲撃が来てプツン来た須美と園子が、のわゆ上巻の乃木若葉ばりの復讐マシーンと化して

けで、そこら辺は散華のことを黙っていた大人たちと比べ勇者に対する距離の近さが表れているんですが、その行動も結局須美の「お役目がある私達は、しあわせだ。(アニメ)」という最悪洗脳完了台詞につながってしまうのは本当にこのアニメの容赦ないところです。

原作では、須美と園子はお祭りの際に見かけたクラスメイトの名前をむしろすらすら言えており(6話「せいいい」)、アニメ・ゆゆいでははつきり明言されている二人の友達つきあい苦手設定はほぼ見られませんが、事情を知らない他の生徒との距離を感じるエピソードもありません。(2話で園子が一回「私、あまり友達いないから〜……。」「と言ったくらい)。(西住みほや桐崎千棘みたく、苦意識を感じているからこそ努力して覚えているのかもしれないが。アニメで追加された、唯一外交的な勇者の喪失原作では唯一ではないので)と、それからのクラスメイトたちとの距離感の描写は、極めて外向的な性格の友奈を始めとして日頃からボランティア活動に従事している讃州中学勇者部と対比させるものであり、アニメ六話での園子のバットエンドに向かってアクセル全開で突っ込んでいくアニメわすゆ独自の展開です。

三. 実質アニメオリジナルの安芸先生

ちよつと話が逸れますが、特殊な立場にあると述べた安芸先生について書きまします。まず、安芸先生はアニメオリジナルです。ノベルでは名前もありません(担任教師「先生」、ノベルに準拠して連載された途中で打ち切られた方の漫画版わすゆに巻末のおまけも合わせて四コマだけ出てくる先生は若干顔が違います。眼鏡かけてるのは一緒だけど。登場頻度もアニメに比べてだいぶ少なく、「三人とも勇者よ」のときくらいしかストーリーに絡んできません。

そんなこんなで、ロボアニメの終盤とかにありがちなちよい会議とかして偉ぶってる奴ら、実は人間じゃありませんでした。みたいな雰囲気すら若干匂わせていたアニメでの大赦(人類補完計画やるし)において貴重な人間味あるキャラであり、勇者たちにとって大赦の窓口である安芸先生ですが、アニメでは大赦側の迷惑の説明と、大人たち子どもたちの対立の構図を理解しやすくする役割を負っています。大社時代から登場しひなたがトップになるのわゆ時代の大赦ならともかく、アニメだけ見ていると大赦は既に歪みまくった後の組織であり、単なる悪役にすら映るわけです。そ

んな神世紀大赦と、昔の大赦(大社)を繋ぐキーマンが安芸先生であり、彼女が西暦時代にひなたに近い巫女を輩出した一族の者であるということも、大赦が神世紀一九八八年においても勇者のことを色々と考えている組織であり、勇者の敵ではないことの表れです。事実、安芸先生は須美たちの担任という大人としては勇者たちの最も近くに居る存在であり、銀への献花で須美に寄り添うなど、勇者の少数ない、というよりわすゆの時代では唯一の良き理解者でした。

そんな安芸先生も、残酷な勇者システムのアペデに対する苦悩や、それを大社の人間として通達する任務の間で板挟みになっていき、瀬戸大橋の闘い以後は完全に大赦の一神官になってしまっわけなんです。この描写が、眼鏡が反射して目が一部隠れる(親に説明してるとき)↓他と同じ仮面を付けて完全に顔を隠す(最後)という映像作品によくある「顔を隠すことで感情・個性を消す」になっているところが高アニメポイントです。顔隠し、個性を消すという点ではくめゆの防人たちの戦衣にも用いられてますが、「量産型はバイザー」っていいのはかなりオタワのツボ抑えてていいよね。あとは眼鏡が透けて見えなくなるのは、アニメに限らず「迷惑を隠したい」キャラの感情を表す定番の表現技法とし

かませバードテックスをボコボコにするシーンがその後続きますが、これも四話と銀と同じく、個人的感情を表に出して闘いがちなアニメの特徴が出ています。原作でも須美が吼えたりとか、怒りの連撃をする描写は有るんですけど、二人で状況分析をしつつ、言葉をかなり交わして連携を取れているので(ここはノベルで書いているゆえの都合も多少あるのかもしれないけど)、温度差がかなりデカイです。そもそも銀に出撃の挨拶とかして切り替えてるし、地の文にもあるように「冷静」なので。アニメでの須美の絶叫が神樹館式出撃の挨拶ならば原作再現ということで落ち着くのですが、明らかに銀亡き後の須美・園子は原作に比べ負の感情マシで描かれてますね。きつい。

またBパート初っ端で須美が神託を受けた後に、須美たちが事情を知らない神樹館のクラスメイトから色々言われて園子が「あのね、そうなりたかった訳じゃないのさ〜」と返すきついついシーンがありますが、これもアニメです。お役目のことを身近なクラスメイトにも打ち明けることの出来ない神世紀勇者たちの孤独という、この世界の残酷さを際立てているエピソードです。千景のような悲劇があったからこそこうなると考えるとよけいしんどい。クラスメイトたちも色々考えてその後六話の行動に至ったわ

て、馴染み深いんじゃないでしょうか。

そんな勇者の章では「大赦神官」としてクレジットされていた安芸先生が、最後の場面で語り部として登場し、スタッフロールの一番上に再び「安芸先生」として登場するところは勇者の章の最後から二番めくらいの感情ポイントかと思えます。その場面でも安芸先生が仮面を外した仕草を見せている(その前に映った際に既に一度仮面は外れていたにもかかわらず)ところが描写されることで、一人の人間をやめた大赦の神官が、もとの安芸先生に戻ったことが視覚的に示されているわけです。よいアニメ描写。このように、安芸先生は、最初子どもたち側の立場に立っていたけれど、途中で世界に絶望しその世界の不条理を受け入れてしまつても、最終的にはやっぱり元の立場に戻ってくる、という行き来を見せるわけですが、これと同じ道を歩んだ子供たち側の人間が、ゆゆゆの主人公・結城友奈です。

四. 乃木園子と結城友奈

あんまり勇者っぽくないかもしれない結城友奈

作中で随一の勇者適正値を誇る勇者オブ勇者・結城友奈ですが、その精神面において、果たして最も勇ましい人間な

のか？という問いには疑問が残ります。個人的には銀のほつが勇者っぽい、と考えているので。

まず、このことを語る上で勇者という言葉についてはっきりしておく必要があります。勇者とひとくちに言っても幅があるのです。まず、アニメの中で友奈が自分を奮い立たせるのに使っている「勇者」はどちらかといえば大赦の勇者的色合いが強いです。夏凜が一期の最後のほうで辞めたやつです。人のことは積極的に助ける、無垢なる少女ではあるんだけど、大赦に反発して謀反を企てることはないし、大赦の「少を犠牲に多を生かす」思想に逆らわずに犠牲の道を選んでしまふ。

それに対して、ぼくが「勇者(ぼく)」と考えるのは勇者部員としての勇者であり、彼女らの根底にあるのは、勇者部五箇条(特に追加された六つ目は、大赦の勇者には持ち得ない概念ですね)であったり、「誰も犠牲にしない」という考えであったり、「勇者は、根性！」であるわけです。その結果大赦とは思想の違いから対立することになるわけで、ここらへんは、東郷(一期では思い詰めるあまり思考がバグって全員滅亡の道を選びかけてましたが)や、芽吹、あとは勇者じゃないけど鉄男が分かりやすいです、上でも述べましたが、また、アニメ

で銀の台詞に追加された「死に対する恐怖」という感情、そして最期の「絶対に帰るんだ！守るんだあ！」という台詞は、勇者部六箇条の六つ目「無理せず、自分も幸せであること」の現れなわけで、銀は結果的には自ら犠牲となってしまったものの、精神的には自己犠牲の道を選んでいたのでないですし、そこそそ端末が引き継がれるほどに勇者らしくたわけて。銀はわすれ組の精神的支柱となる貴重な存在であったわけですね。

一方の結城友奈、彼女はシリーズ構成の上江洲誠さんにも「一見ヒーローに見えるけど、実は異常にトラブルを恐れている神経質な面もある」「(世界を変えるアニメの作り方) (<https://twitter.com/uezuzy/status/715797832129712128>) より。結構やべー本だからオタク読もう」と評されるように、他の勇者部員と比べても極端なほど自己より他人を優先しがちな性格です。これは自分のことを語るのを避けていたのわゆの高嶋友奈にも見られる傾向ですね、こっちは自覚的なところがありますが、まあ勇者の章の友奈は自分の性格を気にする余裕のある状況になかったけど。ゆゆゆいに登場する三人目の友奈・赤嶺友奈も、人道的判断を優先させ家名を没落させてしまった弥勒蓮華とは対照的にお役目を優先させた

過去(?)があるようです、過剰なくらい自分よりも周囲の和を優先させたがる、東郷や芽吹たちに比べ大赦寄りとも取れる友奈ズの思考は友奈の因子に付随する呪いのようなものなのかもしれないね…。

そんな友奈ですが、一期は最終的に自分が無茶する、自己犠牲的な行動(帰ってこれなかったのは御霊に触れちゃったこととか+αがあるからなんとも言えないけど)で場を収め、二期でも同じく自己犠牲の道に走ろうとします。が、ずっとその考えのまま物語が進んだわけでもなく、最終局面で転機が訪れます。それが勇者システムの隠し機能(の域を超えてる感のある)勇気のバトンのバフと、神樹の満開・牛鬼の力による大満開です。あと東郷の叱咤も。

「私は、私たちは、人として闘う。生きたいんだ！」この後に樹が「友奈さんの幸せのため！」って言ってますが(これ年少の樹が言ってるの伸び)、これが作中で友奈に一番欠落してた発想であり、手甲にも浮かんだように他の勇者の力添え、というか感化もあって、ようやく友奈は大赦の勇者ぶりをやめることができた、というわけです。その場面でのもうひと押しを支えたのが「勇者は、根性！」であり、友奈がトドメでその台詞を言っている、さらには原作の園子も一

番全力を出す場面と同じ台詞を言ってる模倣をしている(後述)ことが、ぼくが銀が一番勇者っぽいなど考えている最大の理由です。そこそそ端末が引き継がれるほどに(二回目)。

余談ですが、大満開友奈の「勇者パンチ」、(こ)で見たか忘れた情報によると最初はなかった台詞だけど友奈役の照井さんによって追加された台詞だそうですね。はじめはなかった意図を考えると、「道化」を演じていた友奈の象徴的な台詞である「勇者パンチ」を消去することで、大赦の勇者という「道化」としての生き方から友奈が脱却したことを暗示しているのかも…。だいがこじつけですが。

瀬戸大橋の闘いで園子の心境の違い、わすれの主人公は名前の通り鷺尾須美ですが、讃州中学勇者部と比較して(丸亀組とでもいいけど)神樹館組を見たときにはリーダーの乃木園子です。別に友奈はリーダーじゃないけどね。そんなリーダーの園子ですが、瀬戸大橋の戦いで最期の結末自体は原作とアニメ共通の展開であるものの、その結末の描かれ方は大きく異なります。そこそ、四話の銀の最期よりもずっと。

原作での園子は、アニメ同様散華の存在を瞬時に看破する(冷静に考えて頭が

良すぎるだろうが)ものの、その後満開を繰り返して孤軍奮闘する場面において、かなり前向きな精神状態であったことが地の文からはっきり読み取れます。さらに「勇者は根性」という台詞を言いながら向かっていったわけで、自分の結末は予想はしているものの、メンタル的には一期の謀反東郷は勇者の章の鬱病友奈よりも、最後の大満開友奈のほつがよっぽど近いです。繰り返しになっちゃう

ますが、大満開友奈も、銀を模倣するよつに「勇者は、根性！」と言っているのです。それでも結果あの体になつてしまつ結果自体は共通なので、傍から見ると全然救いがないように感じるわけですが。

それに対してアニメの園子は「私たちは、生かされている」と思いつきり心が折れてしまっているわけ(そりゃあ須美の記憶喪失を目の前で見せられたらそつもなるよね)で、これは最後の大満開友奈ではなく、勇者の章中盤の、一人で走って転んで泣いたり高屋神社にお参りしていたときの友奈の精神に近いです。仮に原作の園子がだいがケクソ気味になつていて地の文はああだけど実は全然最悪の顔つきをしてたと一応解釈しても、アニメのラストの園子のあの顔は、とても「誇り高い気持ち(原作)」だとか、「無限の力が湧いてくる(原作)」って感じ

ではないよね。これは同じく仲間の勇者を全員喪った(ひなたはいるけれども)ものの、天の神に対する抵抗の意思を最後まで貫いた(せんと比べてもはつきり異なる点です。頑張れソノ子！満開をたくさんして、いもむしまぞくになるんだ！大赦。友奈との関連についても、事実勇者の章三話にて友奈は園子と呼応するかのよつに「生かされている」発言をしています。

また、アニメ二期の二つの章は、「ある勇者(園子と友奈のこと)が仲間と相談する手段を奪われ孤立し、神に近い存在となることを迫られる」という共通のストーリーでできています。心が折れてその選択を受け入れてしまったのが、アニメ・鷺尾須美の章の園子であり、そうならず「人として生き」れたのが勇者の章の友奈、あとは原作・鷺尾須美は勇者であるの園子です。勇者の章でも、他の勇者は死んだり記憶を失ったりとわかりやすく友奈の前から退場することはありませんが、天の神の陰湿ないじめみてえな呪いにより「悩んだら相談！」が封じられるという最悪の状況で、上に述べた「生かされている」発言のよつに、わすれの園子の状況の再現がされる展開となります。その現状を打破する存在が、過去から現在までの全ての勇者・巫女たちの勇気のバトンと、また一期で友奈に

逆の立場からぶん殴られて説得されたパートナー・東郷美森であり、それによって勇者の章は鷺尾須美の章とは違うハッピーエンドを迎える、という風に二つの章はセットで対比的に描かれているわけです。

二つの章の対比になつてる一例を挙げると、夏凜がかつての銀と全く同じ攻撃を全く同じところに受けて窮地に陥っているところを、かつて救えなかった園子が救うとかいうオタク大好き展開とかは、勇者の章の友奈にはかつての勇者・巫女を含む仲間たちがいるからバットエンドはないんだ…!となる良い描写ですね。正直一期は闘いが一段落した瞬間から「つわこれ絶対三好夏凜この後一人だけツケが五倍位になつて最悪になる展開じゃん…」とずっと思っていたら想像の十倍くらいのが来ちゃって俺も最悪になりながら視聴していたわけですが、二期は俺がアニメで一番好きなキャラの夏凜がちゃんと救われててそこも良かったですね！よく考えたら勇者の章で夏凜二回くらいガチ泣きしてるし一期より最悪だったわ、やっぱ取り消す。あとは精霊バリアを打ち破った勇気のバトンシーンならともかく、最後のシーンでなぜ銀だけが過去の勇者で唯一友奈に力を貸すことが出来たのかはちょっと引っかかる点ですが(友奈ズみたく特殊な素質

があつたとは明らかになつてませんし、そもそも夏凜がいる時点でちよつとタイプが被る、まあ二つの章がセットになつてることを考えると、夏凜を助けた園子と同じ感じで納得できるのかな、とも思っています。今後明らかになったり、実はノベルとかでさらつと言及されたりしているかもですが…、まだうひも読めてないです。

五. おわりに

以上、「わすれ」ってアニメとノベル美は結構違うし終わり方はむしろ逆くらいまで有るくね？」というだけのことを一万字弱くらいにまでだらだら引き伸ばした文章にお付き合いくださりありがとうございました。ゆゆゆ、他にも引っかけてる箇所とかは結構あるので、オタクとあつたときに色々考察ぶつけ合ったり出来たら嬉しいですね。大満開の章はどんな展開になるのかさっぱり予想も付きませんが(大満開だし勇者の章もつかいフル尺でやったりしない？やんないか)、シリーズ全体でぼくの一番好きなキャラであるところの桶芽吹が動いて喋って、あとは何かにキレてるところが見れるといいな…と思っています。まあアニメの登場って点ではその前のちよつとで普通に達成されそうだけれどね。それでは、またどこかの機会です。

オタクの自分語り

ダイソン

はじめに

こんにちは。最近、大学の授業開始の延期が決まって本気で自分か廃人になるんじゃないかと不安になってきたボイトック18のダイソンです。会誌を書くと言っちゃったのでこうやってパソコンと向き合ってるんですが、全然進まなくて頭を抱えています。

そんなこんなしてたら、何も思い浮かばないまま締め切りを数日ほど過ぎてしまったのでやりたくはなかったんですが、昔一度やった自分の好きなキャラの分析をしたいと思います。前回は六人でこれに似た記事を書いたのですが、せっかく会誌に載せるといふことで今回は数を増やしてやっていこうかなあって思います。

拙い文章になると思いますが、最後まで読んでいただけると幸いです。

キャラの紹介

まず今回の記事を書くにあたってキャラ

ンタックもロングヘアみたいなのですね。(ギブソンの髪型です。あれをどっちに入れていいかわからなかったんでこういう形にさせていただきました。) 遠山りんを一応ショートカットとさせていただきます

キャラ	髪色	髪型	年	声優	誕生日
アリスシンセシスサーティ	金	ロング	同い年	茅野愛衣	4月9日
絢瀬絵里	金	ポニーテール	年上	南條愛乃	10月21日
園田海末	青	ロング	同い年	三森すずこ	3月15日
結城明日奈	茶	ロング	年上	戸松遥	9月30日
霞ヶ丘詩羽	黒	ロング	年上	茅野愛衣	1月31日
薙切えりな	金	ロング	同い年	種田梨沙/金元寿子	3月23日
ダスティネス・フォード・ララティーナ	金	ポニーテール	年上	茅野愛衣	4月6日
桜島麻衣	黒	ロング	年上	瀬戸麻沙美	12月2日
高坂麗奈	黒	ロング	同い年	安済知佳	5月15日
東郷美森	黒	ロング	同い年	三森すずこ	4月8日
藤ノ宮寧子	茶	ロング	同い年	三森すずこ	6月16日
桜内梨子	赤	ロング	同い年	逢田梨香子	9月19日
白鷺千聖	金	ロング	年上	上坂すみれ	4月6日
遠山りん	赤	ショート	年上	茅野愛衣	12月3日
ジュリエット・ペルシア	金	ロング	同い年	茅野愛衣	7月1日
ダーズリン	金	ギブソンの髪型	年上	喜多村英梨	9月17日
新田美波	茶	ロング	年上	洲崎綾	7月27日
渋谷凪	黒	ロング	年下	福原綾香	8月10日
雪ノ下雪乃	黒	ロング	同い年	早見沙織	1月3日
乃木園子	金	ロング	同い年	花澤香菜	8月30日
七草真由美	黒	ロング	年上	花澤香菜	無
丹生谷森夏	茶	ロング	同い年	赤崎千夏	8月30日
榊涼子	赤	ロング	同い年	茅野愛衣	無
柏崎星奈	金	ロング	同い年	伊藤かな恵	5月19日
古手川唯	黒	ロング	同い年	名塚佳織	5月3日

ラを絞り出さないといけないというところで、今回は二十五キャラ選はせてもらいましたので、出演作とともに紹介させていただきます。

せっかくなんで好きなキャラについても三人くらい語らせてもらいたいと思います。

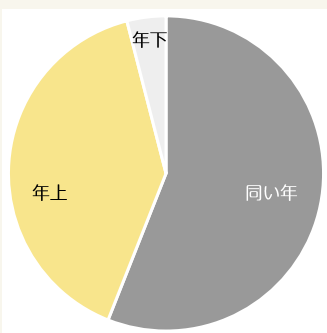
キャラ一覽

- ・ 霞ヶ丘詩羽 (冴えない彼女の育てかた)
- ・ アリスシンセシスサーティ (ソードアート・オンライン アリシゼーション)
- ・ 桜島麻衣 (青春ブタ野郎はバニーガール先輩の夢を見ない)
- ・ 絢瀬絵里 (ラブライブ！)
- ・ 園田海末 (ラブライブ！)
- ・ 結城明日奈 (ソードアート・オンライン)
- ・ 薙切えりな (食戟のソーマ)
- ・ 榊涼子 (食戟のソーマ)
- ・ ダスティネス・フォード・ララティーナ (この素晴らしい世界に祝福を！)

たんですけど、セミロングくらいになるんですかね？兎にも角にも僕がただただロングヘアの女の子が好きだったという話でした。

- ・ 高坂麗奈 (響け！ユーフォニアム)
- ・ 東郷美森 (結城友奈は勇者である)
- ・ 乃木園子 (結城友奈は勇者である)
- ・ 藤ノ宮寧子 (政宗くんのリベンジ)
- ・ 桜内梨子 (ラブライブ！サンシャイン！)
- ・ 白鷺千聖 (BanG Dream)
- ・ 遠山りん (NEW GAME!)
- ・ ジュリエット・ペルシア (寄宿学校のジュリエット)
- ・ ダーズリン (ガールズ&パンツァー)
- ・ 渋谷凪 (アイドルマスターシンデレラガールズ)
- ・ 新田美波 (アイドルマスターシンデレラガールズ)
- ・ 雪ノ下雪乃 (やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。)
- ・ 七草真由美 (魔法科高校の劣等生)
- ・ 丹生谷森夏 (中二病でも恋がしたい！)
- ・ 柏崎星奈 (僕は友達が少ない)
- ・ 古手川唯 (To LOVEる)

ここから客観的に判断しやすい材料として、髪の色、髪型、主人公との年齢関係、声優、誕生日の五点で比較していきたいと思います。髪の色や髪型は大雑把に判断させていただきました。



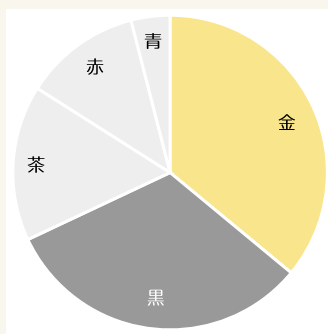
同い年が一番多いという結果になるとは思っていなかったです。自分の中では絶対に年上がダントツで一番だと思っていたんですけどね。デレに関しては武内Pではほとんど年下になる気がしたので、島村卯月を基準にさせてもらいました。改めてメンバーを見返してみると同級生でも大人びたキャラが多いと思うので、まあ妥当な結果なのかな？となりました。

この結果から見てもええかわかると思っんですけど、年上か年下かと聞かれれば間違いなく年上派ですね。

声優

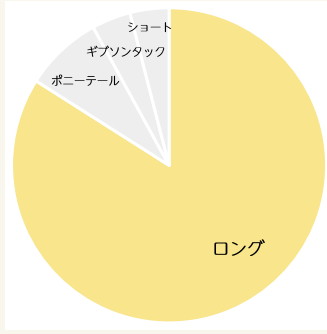
この分野に関しては「茅野愛衣」という一言に尽きると思います。この人については後程じっくり語らせてもらいます。三森すずこさんは、僕がこの人の声、そんなに好きだったか？となります。自分語りになるんですけど、声を

髪の色



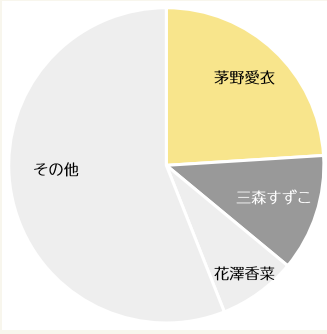
まず髪の色ですが金と黒が三分の一ずつを占めているみたいですね。個人的にはいろんな人に金髪が好きなイメージと言われるんですけど、赤髪の割合が少しあるというの意外でした。あとは黒がもう少し多くなるんじゃないかなあって思っていたんですけどね。

髪型



髪型は…まあそつなるよねって感じでした。見ての通りロングヘアの女の子が大好きなんです…。ポニーテールやギブソンの

好きな声優を三人言えと言われたら茅野愛衣さん、花澤香菜さん、戸松遥さんと答えるって無限回りに言っているのが花澤香菜さんと戸松遥さんがもっと多くてもいいんじゃないかなっていう感想です。他にも種田梨沙さんだったり名塚佳織さんだったりももっと多くてもおかしくないなって人が多かったので、サンプル数の不足が今回の考察の反省点ですね。



これについてですが、誕生日に着目したら面白い関係性でも見れるかなあって思ってたんですけど、とくに面白くなかったり、そもそも誕生日が明記されてなかったりしたので省略させていただきます。十一月が〇人だったことと八月三〇日が二人いたことくらいですかね。

まとめ

今回の集計における僕の好きなキャラクターをまとめさせてもらおうと

- 髪の色は黒か金
 - 髪型はロングヘア
 - 年齢は主人公と同じか年上(お姉さんキャラが好ましい)
 - 声優は茅野愛衣さん(これ重要……)
- という感じになりました。

まあ、こんなキャラは無限にいそつですし、性格や声の特徴なども考慮するともっと具体的になっていくと思うので気が向いたらやろうかなと思います。

本編はここまでです。拙い文章でありましたが、読んでいただきありがとうございます。ございました。

おまけに続きます。

おまけ

ここからは好きなキャラについてただひたすら語るだけの気持ち悪いコーナーとなりますがご了承ください。

今回語ろうと思うキャラは

- 霞ヶ丘詩羽
 - アリスシンセシスサーティ
 - 桜島麻衣
- の三人です。

ネタバレも含むので理解したうえで読

んでください。

アリスシンセシスサーティ(ソードアーク・オンライン アリシゼーション)

このキャラについては特に語ることはないですよ。まあ強いて言うとしたらキャラデザと性格と声ですかね。

まずキャラデザについてですが、これはSAO全体に言えることで、あのアニメはキャラデザがすごい好きなんですよね。実際、リーファとかアスナとかもめちゃくちゃ好きです……。

次の要因が一番大きいんですけど、性格がやっぱり好きなんですよね。これは僕の主観なので、違うだろうって言われるかもしれないですが、真面目で知性を感じますね。やっぱり真面目な女性ってすごい好きなんです、はい。ちょっと気が強そうなところもありますがそこもまたいいんですよ……。

最後の声っていう要因なんですけど、これについては霞ヶ丘詩羽のパートで存分に語らせてもらいたいと思います。

桜島麻衣(青春ブタ野郎はバニーガール先輩の夢を見ない)

この人に関してはマジで性格が刺さりすぎてる感じですね。

うろ覚えで申し訳ないんですが、作中で「私、咲太が思ってるよりも咲太のこ

と好きよ」みたいな発言があったんですけど、年上の彼女から言われたいセリフランキングTOP3には入るでしょ……。

あと映画で「私、咲太には嫌われたくない」っていうシーンもあったんですけど、映画館で見ながら「好き……」って叫びそうになっちゃいましたね。桜島麻衣さんはマジでセリフの一つ一つが心に刺さりすぎて、アニメ見てる頃は「そー……」って毎週叫びながらのたちまわってましたね、これはマジ。

また、このセリフだけじゃ多分そのままで刺さってないんですけど、このキャラの普段の性格が年上の先輩らしく主人公を上から目線でいじって遊んでる感じなんですよね。そんな先輩がいざって時には、主人公を好きだって言ってくるところがさすがに到達してる……。

性格だけだったら間違いなく全アニメキャラの中でダントツの1位ですね。実際、こんな先輩と付き合いたいですよ。梓川咲太がうらやまします……。

霞ヶ丘詩羽(冴えない彼女の育てかた)

まず第一にキャラデザが全体的に好きです。一言で表すと「僕の考えた最強女子高生」「ダイソン性癖コンプリートBOXX」。こんな感じの表現になってきますね。髪型に関してですが、黒髪ロング

です。まあこれはまず外れがない。ショートの方がいいとか言ってるやつは、寝言は寝てから言えって感じですね(嘘です、ごめんなさい)。

そして体型は先輩キャラならではの高校生とは思えないくらいに発達した身体。この完璧な彼女のスタイルを評価しないわけにはいかない。さすがに発音が良すぎるでしょ……。それに加えて制服に黒タイツとか反則すぎませんか？ 男の憧れと言っても過言ではない服装ですよ。あれ嫌いな男おらん？

まあこんな感じで僕の性壁にぶっ刺さってるわけなんです。深崎先生、マジでありがとうございます……。

次の話になるんですけど、アニメの中からわかるように頭もめちゃくちゃ良いですよ。恥ずかしながらアニメをあんまり覚えてないんですけど、確かそんな感じのシーンがあった気がする。まあ小説家って時点で頭良さそう……。これは僕の中ではとてもいいポイントが高く追加されますね。6000いいねくらいですかね……。知性を感じる女性って素晴らしいですか？ なんか頭使わないで話してるんだろなあ……って思ったり、この人馬鹿なんだろうなあ……って感じたりすると、どうしても人として魅力を感じなくなっちゃうんですよ。実際、僕は頭の良い女性と付き合いたい。

性格面に関してですが、まずはS感があるのが素晴らしい。流石に年上で性格もS感があるって到達しすぎでは？ さすがに性格的にも僕好み過ぎるし、お付き合いしたい人生だったね……。一方でちょっとポンコツというかたまに見せる可愛げのある行動もいいですよ。あつ、これは僕の勝手な勘違いかもしれないけど正確ではないです……(なんとなくあつた気がしなくもなかない)。ちよつとイタズラを仕掛けたりするところも可愛いですよ(これも不確かだけどOPにあつた気がする)。

また、ネタバレになるからあまり言えないが澤村・スペンサー・英梨々との関係性の中での彼女のキャラが素晴らしい。特に二期後半くらいから映画にかけての彼女はマジですごい。本当に。アニメを見て止まっている人は、映画まで見て「霞ヶ丘詩羽」という女を理解してほしい。僕は映画を見てる時に心の中で「お前……お前……お前……」って100000回は叫んでましたね。

また挿入歌も神なんです。ラスサビ前の歌詞が特に僕が霞ヶ丘詩羽を好きなの理由なんだろうなって納得させてくれるんですよ。この曲があんまりアップテンポじゃないのに僕が珍しく好きになったのもやっぱり歌詞が大きいですね。

ただこれだけ書いておきながら原作を

読んでない浅いオタクである自分に喝。「お前はそんな人間でいいのか?」。「まだ彼女の魅力の二割も知らないのではなにか?」と。原作を読めばまた彼女に対する評価を変える必要性が出てくるかもしれないです。さすがにそろそろ読みたいなあとは思ってるんですけどね……。

最後に声です。彼女の声は茅野愛衣さんが担当しています。茅野愛衣さんの少し低い感じの年上感のある声が半端なく好きなんですよね……。なんか声から知性を感じると言つか……。実際そう言うキャラが多いからと言つこともあるとは思いますが……。あの人に關してはロリ系の声を出す場合もありますけど、僕は大人っぽい声を出してる時の方が好きですね。でもこんなことを書きながらもガルのパンの武部沙織みたいな高い感じの時も好きなんです結局、茅野愛衣さんの声自体が好きなのかもしれないです。茅野愛衣さんの声ってすごくよくないですか……? 声優のオタクを名乗るなって言われそうですけど、歌とかその他の要素を抜きで純粹に声と演技だけでここまで声優さんに惹かれたのが初めてなんですよね。そんな茅野愛衣さんが声優を担当しているので、霞ヶ丘詩羽を好きにならないわけもなかつて感じですね。

こんな感じで霞ヶ丘詩羽さんが好きです……。はい……。

おまけのまとめ

こんな感じで好きなキャラを書こうって思っ、とりあえず現時点のTOP3を選ばせてもらいました。自分の文才の無さと頭の悪さでキャラの良さを伝えられることができず、悲しみに暮れています……。

気持ち悪く拙い文章になったと思いますが、ここまで読んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

はじめに

最近「☆」を蔑ろにされて気分が落ち込むことが多い18入学のぽさぽさ☆です。他の会員がどんなことを書くのか想像することも難しいくらいには個性的な会員ばかりなのですが、ポイントツク民は狭く深いヲタフが多い印象(偏見)があるので、一つのアニメや声優に話題を絞って語る人間が多いんじゃないかなあと邪推したりしなかったりしてます。

そこで、ぼくは逆に広く浅く、語るという言葉を使うのもおこがましい程の薄っぺらな話をだらだらだらと書いて文字数を稼ごうかなと、そんな感じですよ。もちろん、薄っぺらと言っても嘘は書きません。今年度見たアニメ、約二百作品の中で特に好きだった作品や、良かったなと感じた作品についてとぼーっと書いていけたらなあ(願望)。

「ラディアン」

この作品ね、最初は正直視聴断念しよ

うかと思いましたが、とうかが視聴中断はしました。一期の前半があまり(とうかがかなり)面白く感じなかったんです。

が、二期をやると聞いて視聴再開したら後半えげつない爆伸びをしゃがみまして、いやもう刀使ノ巫女やあかねさす少女の後半の伸びなんか比較にならないレベルでアッチアチな爆伸びでした。二期もなかなかアチイので、素直に好き。ほんとにただの少年漫画って感じっすね(褒め言葉)。

「涼宮ハルヒの憂鬱 (二〇〇六年版)」

二〇〇六年版はやっばりすげえなと見る度に思います。あの時系列シャッフルの構成も本当はよく考えられた順番で、作品の質を高めまくってます。

「いま自分は、何かをやっているっていう感じがした」
これは作中でハルヒが呟く台詞なんですけど、なぜかこの台詞が当時小学生だった僕には突き刺さりまして。何をや

るにしても、この台詞、この話を思い出していました。この台詞があるから、この作品があるから、今の自分がいると言っても過言ではないです。文字通りの全ての元凶、それが涼宮ハルヒの憂鬱(二〇〇六年版)という作品です。もう好きを超越した何かです。意味がわからん。

「風が強く吹いている」

なんか絵がハイキューみたいだなーってのが第一印象。ハイキューもそうなんだけど、この作品も脚本がなかなかなかなかでした。どっちも原作を読んだことはいないけど、アニメを作ってる人間の技量が光ってる気がしました。そんなもってどっちもアッチイ…。駅伝の話なんですけど、駅伝見ない人でも全然楽しめると思います。ただただ、ストレートにいい話。好き。

「空の青さを知る人よ」

一人の少女の淡い初恋と優しい家族愛を繊細に描くだけでこれほどのものができるのかと映画館でウンウン唸ってしまった。種崎敦美さんが声をやってるちゃんぽらん女の子、めっちゃ好きだった。一言喋っただけで、あ、お前、

好き。ってなったよね。うん。

「フィンランド・サガ」

いいキャラしたおっさんが多過ぎる。主人公の精神面での成長がやっとならから見えるっ……ってところで終わっちゃって、ぬあああああ……！って感じでした。とりあえず、続編来い。

「SHOW BY ROCK!! #3」

ほわんは濁点の覇王と言ってもいいと思います。ほわんが濁点モードで喋るときガチでニヤつき止まらないですもん。それに、この子時々、特にマシマヒメコさんと二人きりの時に、めっさいいい表情するじゃないですか？あーりや、もう、は……って感じですよ。ナニモンダヨコノオンナって。マシマヒメコさんの尊さの塊みたいな絡みしてる時なんか、正座しながら何回絶叫したかわかんないっす。てか、マシマヒメコさんさあ、お前さあ……いい曲作るよね。すきよ。特にキミのラブソニー。作詞：マシマヒメコ。作曲：ほわん。いや、この字面何回拜んだかわかんないっす。まーじで好き。とりあえず聴けばわかる。

「ヴァイオレットエヴァーガーデン 外伝」

京アニのガチ作画。泣いた。ガチで。もう一個の劇場版も絶対行きます。絶対。

「EUPHONIA」

「僕の、師匠の正体は……、いじ奴だ」
このセリフ、めっちゃくちゃ染みました。鳥肌尋常じゃない。ワンピースもそうだけど、この人物語作んのうんまっ……ってなりませよね、単純に。あと所々作画がイかれてる、五話の戦闘とか。若い海外のアニメーターが募った精鋭で描いたとかなんとか。見ればわかるけどヤバイ。まじでナニモン……って感じです。

「ONE PIECE STAMBEAT」

ワンピースの映画は全て見てるんですけど、映画館で見たのは地味に初めてでした。CMがずい。あれは見たくなるでしょ、普通に。いやでも、見に行ったら良かったです。ワンピースの映画の中で間違いなく一番好きでした。いやもううね、ワンピースが、めっさいんだわ、まじで。泣いた。

「カレイドスター」

いや長い。そんな古い。けど脚本ががっしりしっかりしてました。さすがはGONZOの奇跡って言われるだけはあるですね。最後まで辿り着いたら素直に良いアニメだったなと言わせる説得力の塊みたいな、濃く太い物語でした。

「HUNTER × HUNTER」

これは「ハンター×ハンター」の方も含めれば四周目の視聴です。いまやっている再放送はちょうど幻影旅団編が終わった辺りなんですけど、やっぱりこの作品ジャンプっぽくないですよ。なんか敵とバチバチに戦闘するっていうよりは頭で考える方に重きを置いてるっていうか。あとなんか暗いですよね。少年誌より青年誌の方が似合う感じ。だからか、少年の頃に見た時より評価上がってるんですよ。少年の僕にはまだ理解できなかった良さや深みがあるんだと思います。個人的にはリメイク版より旧版の方が好きなのでそっちの再放送もずっと望んでます。あと、誰とは言わないけど、仕事しろ、富樫。

「アイカツ」

所謂女兒向けアニメという代物、小学校低学年の頃は姉の影響もあり、プリキュアやしゅごキャラ、マイメロにめちゃモテ委員長など割と見てはいたんですけど、高学年になるとともに見なくなり、高校生になる頃には全く見ず、将来的にも見ることはないだろうなと思っていました。しかし、大学に入って女兒アニメを推す先輩がゴロゴロごろつきのように蔓延っている光景をツイッターなどで目の当たりにして正直面食らいました。それと同時に、これ程多くの人が推すということはそれなりに楽しめるんだろうなと漠然と思ったりもしてました。そんなときにアイカツの再放送をやるという情報を手に入らして、これは好機と録画予約し毎週一話ずつちまちま見ること一年間、ようやく五十話まで到達しました。いや良かった。けれど、全くストレスはなかったです。というか普通に毎話毎話面白かったです。キャラも立っていて、ストーリーも申し分ない出来でした。特に三十七話。あれは思わず声が出ました。あんなアツイ展開が来ると思ってもみなかったの。ほんとに見て良かったなと素直に思います。再放送は五十話で終わってしまいましたけど、五十一話以降も機会があれば見たいです

ね。

「SHIROBAKO」

見る度に好きになります。本当に構成、脚本が天才的。無駄な回、無駄なシーン、無駄なコマが一つもない。完成されている。これがアニメの完成形の一つと言っても過言ではないんじゃないでしょうか。変な話、アニメの教科書にした方がいいと思います。ニコニコ挙や再放送をできるかぎり回収してるので五周くらいはしてると思うんですけど、それでも全く退屈しないし、すんごい楽しめます。劇場版もちゃんと「SHIROBAKO」で安心しました。変な話、めっちゃ泣いちゃって、もうよくわかんなくなりました。でも好き。遠藤さんの奥さんまじで良さ。遠藤さんもめっさい。平岡も成長してさ、お前がそれ言うのか。言えるようになったのか……ってなったし。ずかちゃんが声優やってるだけで涙腺は馬鹿になるし。ディーゼルさんはかわいし。あ、でも僕は矢野さんが好きですよ。結婚したい。

「おわり」

他にもいい作品はほんとにめちゃくちゃありましたが、疲れたのでこの辺で

終わります。最後に、小見川千明の仕事が増えて、ソウルイーターのアニメがリリースされますように。

私の中のVtuberという存在

taki

一. たまごめ

「たまごめ」は、19のtakiというものです。最近コンテンツに対する感情が少しずいぶん倒れ込んできたので解決策を探しています。解決策を知っている人は誰か教えてください。

「たまごめ」今回はそんなコンテンツ「Vtuber」について他のコンテンツと比較しながらの向くままにいろいろと書いていきたいと思います。Vtuberを知らない方もVtuberにはまっている方も、最後まで読んでいただくと幸いです。

内容に関してですが、かなりメタ的な話にも触れていきます。苦手な方は「注意ください」。また、慣例にならないVtuberの中の人や中身のことを「タマシイ」と呼ぶことにします。文中で「タマシイ」と言われたら、霊体のようなものではなく生身の人間のことで思ってください。そこでこの「Vtuberのキャラクター」そのものの見た目のことを「ガワ」と呼びます。「たまごめ」は比較的わかり

やすいのではないのでしょうか。

二. Vtuberとは何かー近いけれども遠い存在ー

簡単に説明するとVtuber (Virtual YouTuber) とは二次元や三次元のキャラクターの見た目でyoutubeのような活動をするというものです。最近では配信活動や創作活動で自身を発信したい場合の対外的な仮面のような側面も持ち始めた印象がありますね。名前くらいは耳にしたことがある人も多いのではないのでしょうか。一見するとアニメのキャラクターと何ら変わりませんが、実はかなり違うのです。ここでは部分的にアニメのキャラクター(ゲームでも漫画でもラブでも構いませんが代表してアニメのキャラクター)と対比させながら、Vtuberがどのような存在なのか説明していきたいと思います。

先ほども軽く説明しましたがVtuberにはガワがあり、タマシイがあります。それに対し、アニメのキャラにはキャラ

クターと、声優がいます。ガワとキャラクターはほぼ同じものですね。そして、タマシイと声優はどちらもそれぞれに声、いわば命を吹き込むという役割があるわけですね。まあ、当たり前のお話ですね。それでは違いがどこにあるのかという点、ガワとタマシイ、キャラクターと声優の対応関係に大きな違いがあります。

「ここから少し話がややこしくなるので、話をわかりやすくするために二枚ほど画像を用意しました。それぞれの関係についてこのようなイメージをもって下さい。

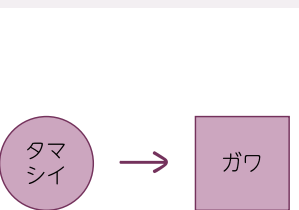


図1. ガワとタマシイの関係

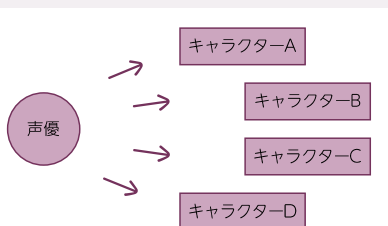


図2. キャラクターと声優の関係

基本的にVtuberの場合はガワとタマシイは完全に1対1で対応します。視聴者の側に「このガワ(タマシイ)のタマシイ(ガワ)はこれだ」と認識された時点でガワとタマシイの関係はがっちり固定される訳です。

対してアニメキャラの場合は一人の声優が複数のキャラクターに声をあて、命を吹き込んでいます。もちろん声優はプロですから各キャラクターによって声の出し方から気持ちの入れ方に至るまで演じ分けています。そうしてこのキャラクターにはこの声優があっている、いわゆる「はまり役」というものが出てくるわけです。しかし、どんなにキャラクターにはまっている「このキャラクターの声優はこれだ」となることはあっても「この声優のキャラクターはこれだ」とは普通なりませんよね。(そんなことになっていたら声優としてアッパレな気がします、それはまた別の話。)

Vtuberとアニメキャラの大きな違いはこの対応関係にあります。言ってしまうと、Vtuberというものは全員が完璧なはまり役なわけです。声優とキャラクターからなるはまり役とは次元が違うものなのです。(たまごめが上とかではなく別物だとして話します。)

良くも悪くもこのガワとタマシイの強固な関係がVtuberの大きな特徴です。

人も多いですね。どちらにせよ、そんな話し方が癖になって気が付いたら配信を見てしまつたなんてことも多いのではないのでしょうか。

「ここまでVtuberの活動における雑談の重要性をわかっていただけたかなと思います。ただし、いくら雑談や配信が面白くてもそれを認知されることがなければ人気でることはないですね。そこで重要になってくるのが「切り抜き動画」というVtuber界隈における特殊な文化です。この文化はVtuberが話題になり始めたころからあったけっこう大切な文化だったりします。

切り抜き動画とはVtuberの生配信で面白かった場面を配信の中から切り取って短い動画にして、YouTubeやTwitterに投稿した動画のことを指します。まず一つ目に大事なことがあるのですが、この切り抜き動画はほとんどの場合、視聴者が勝手に作っているということだと思います。もちろん視聴者が好きに作っているものなので、同じ場面の切り抜き動画がいくつも投稿されていたり、編集の凝り方に差があったりします。そしてそのよくな人たちは切り抜き職人などと呼ばれVtuberオタフの中では有名だったりします。

そして二つ目に大事なことで特殊な文化たる所以でもあるのが、切り抜き動画

に対して界隈が驚くほど寛容であるという点です。Vtuberにとっては専用のハッシュタグを作っているほどです。極端に言ってしまうえば切り抜き動画は動画と同じようなものです。無料で見られる動画から転載しているとはいえずVtuber以外の実況者の生配信を切り抜いて同じように動画を作っていたらたぶん怒られますよね。最悪、著作権侵害で訴えられます。

しかし、Vtuberの界隈では切り抜き動画を作っても大丈夫なところが一種のステータスようになっていきます。それこそ、話題になるような切り抜き動画はVtuber本人がリツイートしたりお礼を言ったりしています。

切り抜き動画の良さの一つに動画が気軽に見られるということがあります。動画時間が短いこともありですが、多少長くても面白い部分の切り抜きなので飽きずに最後まで見られます。なぜ気軽に見られることが重要なのかというと、今のVtuberの配信スタイルに大きく関係しています。

今のVtuberの配信スタイルは生配信が主体となっています。一時間を超えているうえ、なかなかの頻度で配信しています。ファンであっても複数人のすべての配信を見るということは不可能に近い

です。そして、それらの長い動画がずっと面白いと思ってみられるのは一部の本当に好きな人だけだと思います。

もちろん、悪いことばかりではありません。これらの長い動画は作業動画にするにはちょうど良かったりします。家で仕事することが多いイラストレーターやトラックメイカー、作家などがVtuberをよく見ている理由なのかもしれませんね。

少し話がそれましたがVtuberが好きな人でさえ全ての配信を見ることができない中で、初見の人いきなり対象にあるアーカイフの中から選んで見るといっても酷な話です。そこで活躍するのが切り抜き動画の気軽さです。元からVtuberを知っている人にとっては手軽に配信内容の確認になり、初めて見る人にとってはちょうど良い入門動画となっているわけです。

このような性質から、切り抜き動画という文化はVtuberの三年ほどの短い期間での爆発的な広がりにおいて非常に大切な役割を担っていたと思います。そしてそれはこれからも変わることがないと思います。

さて、大事な要素はまだまだあるのですがあまりにも長くなりすぎるのでこの辺で一区切りつけようかなと思います。(楽曲の話とか、ファンとの距離感の

話とか、Vtuber同士のコラボの話とか、二次創作の話とかね。)

五. 最後に

このVtuberの界隈が短い期間でこれほどまでに大きくなったのは、Vtuberとファンがともに進んできたからだと思います。かつてあるVtuberのファンだった一人の視聴者が二年後に同じステージでライブをするVtuberになっていることだってあります。Vtuberとファンの間には数えきれないほどの大切な物語があるはずです。

何度もいいますがこのVtuberの業界はとても若いです。恐ろしい速さで変化しています。もしかすると一年後には無くなっているかもしれません。

それでも私は一人のファンとしてこの界隈の行く末を見たいと願っています。そんなことを考えながらVtuberとの今の時間を大切にしていきたいと思えます。書いていた時間が深夜から早朝

六. あとがき

ここまで読んでいただきありがとうございます。あまり文章というものを書かないので読みにくい部分も多かったと思います。書いていた時間が深夜から早朝

にかけてだからね、しょうがないね。私がかっこよく書きたいことを書いたのだとしたら、この文章を読んでいると思うところがあるよって方がいると思います。その時は感想でも文句でも実際に言ってもらえるとありがたいです。(必ず

すがに炎上したら怖いけど炎上するほど人見ないよね。)自分自身でVtuberに対しての想いを見直してみることはもちろんですが、読んでくれた方がVtuberについて改めて考えるきっかけになったらいいなと思います。こんな文章を書いてみました。個人的に、考えを文章化して自分の外に出すということは頭の中を整理するには有用な手段なんじゃないかな〜と

思っているのでもいい機会でした。
まあ、実際はまだまだ書きたいことがあるのですが何せ締め切りというものがありますからね。それらについてはまたどこか(個人ブログかブログリレーか)で書きたいと思います。これを書いていく時点で一週間押してきますので…。締め切りに間に合わないクリエイターの気持ちや少し体験できた気分ですね!お

得!
はい、次は締め切りに余裕を持つクリエイターの気持ちや体験したいと思えます。本来、この会誌は今年のGWに開催されるコミックマーケットで頒布する予定のものでした。中止になってし

まったことはしょうがないですがいくつかベンジしたいと思います。それまでに読みやすくて面白い文章の書き方を練習しないとイケないですね。
最後まで読んでいただき本当にありがとうございます。それでは、またどこかでお会いしましょう。ポイテック19のtakiでした。

楽曲十選

オタク達に2019年で最も気に入った楽曲を10曲選んでもらいました。2019/01/01から2020/02/29に発売されたすべての音源が対象です。

ほね

- 1位: Blast! / TRUE
 - 2位: 紅蓮華 / LiSA
 - 3位: ブレス・ユア・ブレス / 和田たけあき
 - 4位: アイ / DECO*27
 - 5位: Ain Soph Aur / サンドルフォン
- 以下該当なし

しまうま

- 1位: Purple Rays / オルタンシア
- 2位: キミのラブソディー / Mashumairesh!!
- 3位: Grow at the Velocity of Light / 安月名莉子
- 4位: 勇気のバトン (のわゆ ver) / 乃木若葉 (CV: 大橋彩香), 上里ひなた (CV: 高野麻里佳), 高嶋友奈 (CV: 照井春佳), 郡千景 (CV: 鈴木愛奈), 土居珠子 (CV: 本渡楓), 伊予島杏 (CV: 近藤玲奈)
- 5位: よいまちカンターレ / コーロまちカド
- 6位: 放課後のリバティ / halca
- 7位: インフェルノ / Mrs.GREEN APPLE
- 8位: まっさら / KANA-BOON
- 9位: 楽園都市 / オーイシマサヨシ
- 10位: カワキヲアメク / 美波

ぱさぱさ☆

- 1位: キミのラブソディー / Mashumairesh!!
- 2位: なかよしセンセーション / ユニ (CV: 小原好美), チエル (CV: 佐倉綾音), クロエ (CV: 種崎敦美)
- 3位: キズナミュージック / Poppin'Party
- 4位: 気ままな天使たち / わたてん☆5
- 5位: スマイルスキル = スキスキル! / 赤き誓い
- 6位: ダイスキ。 / 大橋彩香
- 7位: よいまちカンターレ / コーロまちカド
- 8位: I beg you / Aimer
- 9位: えんどろ〜る! / 勇者パーティー
- 10位: グランドエスケープ feat. 三浦透子 / RADWIMPS

Anthony

- 1位: キラリスト・ジュエリスト / Run Girls, Run!
- 2位: ひよこのうた / Le☆S☆Ca
- 3位: ネオンライト (feat. 星宮とと) / TEMPLIME
- 4位: 土曜日のフライト / Wake Up, Girls!
- 5位: 単一指向性オーバーブルーム / 葛城華 (CV: 丸岡和佳奈)
- 6位: Future Seeker / 水瀬いのり
- 7位: シュガーコート・ドリーム / 白咲花 (CV: 指出穂亜)
- 8位: twinkle night (feat. somunia) / nyankobr&yaca
- 9位: 乙女解剖 / DECO*27
- 10位: 未来の彼方 / 草津結衣奈 (CV: 高田憂希)

ロクサス

- 1位: セーので跳べて言ってんの! / 本城香澄 (CV: 岩橋由佳)
 - 2位: メリージェーン知らない / THE KEBABS
 - 3位: カワキヲアメク / 美波
 - 4位: I beg you / Aimer
 - 5位: この世界で / 家入レオ
- 以下該当なし

とよひさ

- 1位: インディビジュアル・ジュエル / リングマリア
- 2位: My Secret heArtbeats / 緑川さら (CV: 若井友希)
- 3位: ポラリス / BLUE ENCOUNTER
- 4位: Good Morning World! / BURNOUT SYNDROMES
- 5位: キラッとスタート / ミラクルスター
- 6位: ダイヤモンドスマイル / Run, Girls, Run!
- 7位: リライズ / スピラ・スピカ
- 8位: キラリスト・ジュエリスト / Run, Girls, Run!
- 9位: アタシ♡カワイイ♡宣言!!! / 姫坂乃愛 (CV: 鬼頭明里)
- 10位: アルティメット☆MAGIC / i☆Ris

あすめ

- 1位: Share the light / Run Girls, Run!
- 2位: ハレトキドキメランコリック / ここなつ
- 3位: OvertuRe: / KiRaRe
- 4位: ひよこのうた / Le☆S☆Ca
- 5位: スノウ・グライダー / Run Girls, Run!
- 6位: なかよしセンセーション / ユニ (CV: 小原好美), チエル (CV: 佐倉綾音), クロエ (CV: 種崎敦美)
- 7位: この世界はすばらしい / わかば from BEST FRIENDS!
- 8位: La La Meltic StAr / メルティックスター
- 9位: クレイジークレイジー (M@STER VERSION) / 一ノ瀬志希 (CV: 藍原ことみ), 宮本フレデリカ (CV: 高野麻美)
- 10位: ダイスキ。 / 大橋彩香

アニムス・スキピウス・オタクヴィウス

- 1位: share the light / Run Girls, Run!
- 2位: BLACK FOX / fripSide
- 3位: break the blue!! / Run Girls, Run!
- 4位: よいまちカンターレ / コーロまちカド
- 5位: brand new days / 高町なのは (CV: 田村ゆかり), フェイト・T・ハラオウン (CV: 水樹奈々)
- 6位: Shiny Happy Days / ショコラ (CV: 八木侑紀), バニラ (CV: 佐伯伊織), アズキ (CV: 井澤詩織), メイプル (CV: 伊藤美来), シナモン (CV: のぐちゆり), ココナツ (CV: 水谷麻鈴)
- 7位: ダイスキ。 / 大橋彩香
- 8位: FANTASTIC ILLUSION / i☆Ris
- 9位: RISE / MADKID
- 10位: TEMPEST / 石原夏織

ケチャブ

- 1位: Virtual to Live / にじさんじ
- 2位: 紅蓮華 / LiSA
- 3位: 私論理 / 花譜
- 4位: Fam ☆ Fam ☆ Time! / ド葛本社
- 5位: 過去を喰らう / 花譜
- 6位: 雛鳥 / 花譜
- 7位: ADAMAS / LiSA
- 8位: unlasting / LiSA
- 9位: 咲かせや咲かせ / EGOIST
- 10位: エイミー / 茅原実里

柊

- 1位: 勇気のバトン (のわゆ ver) / 乃木若葉 (CV: 大橋彩香), 上里ひなた (CV: 高野麻里佳), 高嶋友奈 (CV: 照井春佳), 郡千景 (CV: 鈴木愛奈), 土居珠子 (CV: 本渡楓), 伊予島杏 (CV: 近藤玲奈)
- 2位: みんなで! / 沼倉愛美
- 3位: Take Over You / 山村響
- 4位: 夜空 / 鈴木みのり
- 5位: 生きる / 安野希世乃
- 6位: 葵 / あいみょん
- 7位: Journey / 洲上舞
- 8位: secret melody [UPDATE] / 牧野由依
- 9位: サンセット・レモネード (feat. 日南結里) / ヒゲドライバー
- 10位: 警戒線 / 大越香里 (艦隊これくしょん - 艦これ - KanColle Original Sound Track vol.V 波)

ダイソン

- 1位: アルティメット☆MAGIC / i ☆ Ris
- 2位: ダイスキ。 / 大橋彩香
- 3位: Phantom Joke / UNISON SQUARE GARDEN
- 4位: icy tail YO! / 氷堂美智留 (CV: 矢作紗友里)
- 5位: Pretender / Official 髭男dism
- 6位: Resolution / 戸松遥
- 7位: 空の青さを知る人よ / あいみょん
- 8位: Brightest Melody / Aqours
- 9位: インフェルノ / Mrs.GREEN APPLE
- 10位: パパパ / 斉藤朱夏

しばたそ

- 1位: アクアリウム / 駒形友梨
- 2位: お望み通り / 坂本真綾
- 3位: ユーランゴブレット / 坂本真綾
- 4位: ホーキングの空に / 坂本真綾
- 5位: Kiss Me / キャロル & チューズデイ (Nai Br.Xx&Celeina Ann)
- 6位: お願いマッスル / 紗倉ひびき (CV: ファイルーズあい), 街雄鳴造 (CV: 石川界人)
- 7位: シュガーコートドリーム / 白咲花 (指出穂 亜)
- 8位: 私に "好き" が舞い降りた / 星野みやこ (CV: 上田麗奈), 松本香子 (CV: Lynn)
- 9位: Blessing / 高垣楓 (CV: 早見沙織)
- 10位: Bleu Noir / 早見沙織

井上

- 1位: ユメシンデレラ / 麻倉もも
 - 2位: スマッシュドロップ / 麻倉もも
 - 3位: 365 × LOVE / 麻倉もも
 - 4位: Free Turn / TrySail
 - 5位: PARADOX / 雨宮天
- 以下該当なし

かやりょう

- 1位: HEAT: Moment / 橋本みゆき
- 2位: Yes, We Are!!! / オルタンシア
- 3位: 夢を撃ち抜く瞬間に! / Poppin'Party
- 4位: 乙女どもよ。 / CHICO with HoneyWorks
- 5位: ガール・ミーツ・ガール / 小倉唯, 内田彩
- 6位: I swear / sweet ARMS
- 7位: beautiful world / 内田彩
- 8位: よいまちカンターレ / コーロまちカド
- 9位: 未来へのフリーゲル / Various Artists
- 10位: Shiny Happy Days / ショコラ (CV: 八木侑紀), バニラ (CV: 佐伯伊織), アズキ (CV: 井澤詩織), メイプル (CV: 伊藤美来), シナモン (CV: のぐちゆり), ココナツ (CV: 水谷麻鈴)

とまい

- 1位: ひよこのうた / Le ☆ S ☆ Ca
 - 2位: 町かどタンジェント / shami momo
 - 3位: Girly Cupid / PSYQUI
 - 4位: Augmentation (feat.Moe Shop) / KMNZ
 - 5位: だから今夜きみと / 沼倉愛美, 原由実, 浅倉杏美
- 以下該当なし

ぬまっち

- 1位: Why am I / 奥野香耶
- 2位: あのね / 奥野香耶
- 3位: 海、そしてシャッター通り / Wake Up, Girls!
- 4位: 言葉の結晶 / Wake Up, Girls!
- 5位: 土曜日のフライト / Wake Up, Girls!
- 6位: さようならのパレード / Wake Up, Girls!
- 7位: はじめてのかくめい / DIALOGUE+
- 8位: 天晴れ! 原宿 / あっぱれサマー
- 9位: never-ending!! / Run Girls, Run!
- 10位: Star Diamond / スタァライト九九組

ロト

- 1位: Resister / ASCA
- 2位: CHAIN / ASCA
- 3位: ポラリス / BLUE ENCOUNT
- 4位: Faith / MADKID
- 5位: RISE / MADKID
- 6位: TIT FOR TAT / MYTH@ROID
- 7位: glory days / 春奈るな
- 8位: Plunderer / 伊藤美来
- 9位: Fire bird / Roselia
- 10位: Resolution / 戸松遥

ぬっくー

- 1位: 好きすぎてやばい。 / HoneyWorks
 - 2位: 乙女どもよ / Chico with HoneyWorks
 - 3位: paradox / 雨宮天
 - 4位: 紅蓮華 / LISA
 - 5位: インフェルノ / Mrs. GREEN APPLE
- 以下該当なし

okb

- 1位: Phantom Joke / UNISON SQUARE GARDEN
- 2位: ラブ・ドラマティック / 鈴木雅之
- 3位: チカッとチカ千花っ♡ / 藤原千花 (CV: 小原好美)
- 4位: final phase / fripside
- 5位: shadow is the light / THE SIXTH LIE
- 6位: I swear / sweet ARMS
- 7位: PARADOX / 雨宮天
- 8位: 裏切り者のレクイエム / ハセガワダイスケ
- 9位: I beg you / Aimer
- 10位: お願いマッスル / 紗倉ひびき (CV: ファイルーズあい), 街雄鳴造 (CV: 石川界人)

taki

- 1位: Virtual to LIVE / にじさんじ
- 2位: サプリミナル・シンクロシティ / グリーンルージュ
- 3位: DOGMA / シスター・クレア
- 4位: 純情色めく焔は揺れて / 月華美人
- 5位: SweetDream / ミディ
- 6位: リンクロット (feat. 星宮とと) / TEMPLIME
- 7位: Girly Cupid / Marpril
- 8位: ネオンライト (feat. 星宮とと) / TEMPLIME
- 9位: コンピューターミュージックガール / ミディ
- 10位: かくれんぼ / AliA

クール毎振り返り

—二〇一九編—

二〇一九冬 (平均完走本数: 五・三)

ラブコメが強いクールとなりました。19生にとっては受験シーズンでしたが、一本も観ずに受験モードに切り替えていた(であろう)オタクもいる一方、むしろ春よりも完走本数が大分多いオタクもそれなりにいるようではつきりと傾向が割れる結果となりました。大学受験よりも、放送されているアニメのジャンルの方が重要なようですね。

一位…かぐや様は告らせたい〜天才たちの恋愛頭脳戦〜

ヤングジャンプを代表するラブコメのアニメ化が一位に。オープニング／エンディングのどちらも別々の方向性で大きな話題となりましたね。

二位…五等分の花嫁

三位…私に天使が舞い降りた!

ピックアップ枠…約束のネバーランド

僅差でランクインしなかったアニメや、話題性の割に意外と票が集まった／集まらなかったアニメを独断と偏見で紹介していきます。このクールではわたちゃんと三位を争っていた約束ネバをセレクト。一位のかぐや様といい、ジャンプ作品の層の厚さが感じられますね。

二〇一九春 (平均完走本数: 四・六)

春クールは結果的に完走本数が最も伸び悩む結果となりました。クール自体の豊作不作というよりも、新生活(大学入学や、東工大における系所属など)が始まったことによる視聴環境や時間の変化が影響しているようにも思えます。今年度においても新型コロナウイルスの影響により伸び悩むクールとなってしまう春クールですが、今後もこのような傾向が続くのか気になるところです。

一位…鬼滅の刃

あまりの人気ぶりに、逆張って未視聴でいた会員が、帰省時に普段アニメを全く見ない家族に逆に勧められるというような珍現象が複数発生していましたが、ちゃんと見ていた会員たちも多かったようです。

二位…この音とまれ!

三位…ひとりぼっちの○○生活

ピックアップ枠…賢者の孫

むしろ当会では逆の意味で話題になっていたようにも思える作品でしたが、愛好するオタクが一定数いるようです。聞いてもないのにわざわざ批判コメントを回答してくれるオタクもいました。好きの反対は無関心。

二〇一九年(度)も数多くのアニメが公開されました。このコーナーではサークルのオタク達に各クールごとのアニメを個人的にランキングしてもらい、そんな二〇一九年を振り返らえよう!というものです。見放題サービスが普及した昨今、オタクのイチオシリストの中から、新たな発見があるかもしれません。

二〇一九夏 (平均完走本数:六・五)

夏休みに入り時間的余裕も大きかったのか、春クールとは打って変わって最も完走本数が多いクールでした。票の集まったアニメのジャンルも、ジャンプ、きらら、ウェブ漫画、ラノベ、なろう原作や新たなアイドルコンテンツなど多岐にわたりの様々なオタクが楽しめるクールであったように思えます。

一位: まちカドまぞく

伸びたな〜(腕組み)(あずめ)。/登場人物の掛け合いのテンポの良さ、ユニークなオノマトペの表現、時折垣間見える妙に現実的な貧困描写などで独特の雰囲気を感じていたこの作品がランクイン。なぜか電車内で号泣しながら視聴していたオタクもいるようですが、普通に精神状態が心配になります。

二位: ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうかII

三位: Dr.STONE

二〇一九秋 (平均完走本数:五・五)

長期シリーズ作品が強さを見せたクールでした。食戟のソーマ 神の皿(四期)(三期)などにも票が寄せられていたことからそれが伺えます。単発一クール作品でも各々の上位三つにランクインしたものは多かったようですが、かなり票が分散してしまったためこのような結果となりました。

一位: ソードエリート・ウォリアー Underworld

主人公が一生廃人をしていく「キリト介護編」が一位に。話としては分割クールで現在放送中の後半部分がピークである気もしますが、このクールでも一位を獲得しているのは流石東工大アニメーションといったところ。

二位: 僕のヒーローアカデミア(四期)

三位: Fate/Grand Order ―絶対魔獣戦線バビロニア―

ピックアップ枠: Re: ステージード リームデビュー

楽曲派のオタクたちにとっては待望のアニメ化であったリステですが、ランクインこそ逃したものの、アニメのクオリティも良く、ライブも特徴的な形式で大きな反響を呼んでいました。二〇一九年のアイドルコンテンツにおいて、リステは大きな存在感を發揮していたと感じられます。

ピックアップ枠: 慎重勇者〜この勇者が俺TUEEEくせに慎重すぎる〜

票がバラけてしまっていた一クール作品において複数票をあつめた数少ない作品でした。序盤からのテンポの良さやコミカルな動き、そして終盤の展開など、一クールものとしてまとまりがよく気軽に完走できる良い単発作品であったように思えます。

二〇二〇冬 (平均視聴本数:七・九)

このクールだけはアンケート時期の都合もあり、視聴途中(二月末時点)でのランキングとなります。視聴途中での順位をつけることがあまり無いため、完走したあとで見返してみるとなかなか興味深いですね。

一位: ランウェイで笑って

二位: 恋する小惑星 アステロイド

三位: ...とある科学の超電磁砲I レールガン

ピックアップ枠: 異種族レビュアーズ

番外: 映画編 (平均視聴本数:六・〇)

二〇一九年は、アニメ映画がかなり豊富なシーズンでした。中には年度での完走本数よりも、アニメ映画の視聴回数の方が多いオタクもいたようです。ランキングとしては、二位に七作品が同票で競り合うという面白い結果となりました。以下に全て挙げます。

金賞: 劇場版 響け! ユーフォニアム 誓いのフィナーレ

数々の名だたる作品たちを抑え、久美子の二年生編を描いたこの作品がトップに躍り出ました。絵・音楽・ストーリーのどれをとっても素晴らしく、百分の上映時間でありながら、もっと長く劇場で見ていたいと思わせてくれるような作品です。

天気の子

公開直後よりサークル内での評価が二分され、昼食会などでもかなり議論がされていたことが印象的な作品でした。やはり話題性もあって視聴したオタクの母数が多かったこともありこの結果となったようです。

空の青さを知る人よ

こちらは天気の子とは対症的に、アンケート回答者の中で視聴した人はあまり多くはなかったようですが、視聴したオタクからはかなり評価の高かった映画でした。円盤を購入した人も複数人いるようです。

冴えない彼女の育て方 Fine

青春ブタ野郎はゆめみる少女の夢を見ない

ジャンルの近さからか、この二作品はセットで上位三位以内に挙げるオタクが多かったことが印象的でした。一方の作品だけまだ見ていないオタクには、かなりオススメできるのかもしれませんが。

ガールズ&パンツァー 最終章 第2話

オタクからすれば第1話から本当に待ちに待った第2話であったと思います。2話では白熱の戦闘シーンや衝撃的な展開が矢継ぎ早に繰り広げられ、待っていたオタクたちも納得できる出来だったと思います。第1話と合わせ待望の4DX版が公開され、最早恒例となりつつある一部劇場での過去作品との同時上映がなされたこともあり、劇場へと足を運

んだオタクも多かったのではないのでしょうか。

劇場版 Fate/stay night [Heaven's Feel] II. lost butterfly

ヴァイオレット・エヴァーガーデン 外伝 ―永遠と自動手記人形―

これら二作品はそれぞれの評価が高いこともやることながら続編にあたる劇場アニメが現在公開中・もしくは近日公開される作品であり、今から追いつくのにおすすめの作品です。Fateの過去作無料公開は期間限定で、残念ながら既に終了してしまいましたが、「エヴァーガーデン外伝」は、新作「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」の公開に合わせてNetflixでも配信が開始されることもあり、とりわけおすすめの作品です。

他にも、「プロメア」「コードギアス 復活のルルーシュ」「メイドインアビス 深き魂の黎明(二〇二〇年一月公開)」などの作品の名も挙げられていました。ほぼ一年と通じて、映画館で見るアニメに困らない年だったのでないでしょうか。一時期は大学よりも映画館にいる印象のほつが強い会員もちらほらいた気がしますが...

卒園（サークル引退のことです）に際して、17生から一言ずついただきました。ポイテックではコメントを寄せてくださった5名のほか1名を合わせて6名の方たちが卒園されますー今までありがとうございましたー

じゅんぽ

あじふじゅん間の楽しさ三年間でした。あじがじゅん。

ほね

モチベーションある時はイベントに行った方がいいます。じゅんの間にか消えることがあるので気をつけてください。

Anthony

オタクできても楽しかったです。

あま

会誌のフォリティがブんと上がって驚いています。

じゅん

実は赤が好きでした。

編集後記

ポイテックの会誌を読んでただきありがとうございました。本来、この号は紙の本としてコミックマーケット98にて頒布される予定のものでした。新型コロナウイルスの影響によりそれは叶わず、さらに追い打ちをかけるように二年連続での工大祭中止により当会も例年通りの対外的な活動は難しい状況となりましたが、それでも企画にむけての準備や、他大学との交流などの活動は変わらず続いています。

新たに新歓活動の一環としてインターネットラジオも始まり、ますます活動の幅を広げる当会ですが、そんなポイテックの活動に興味を持たれた方、アニメ・楽曲・声優・ゲーム・ラノベ・漫画・Vtuber...などなどあらゆるオタクコンテンツの話ができる人間を求めている方は、是非今後始まるポイテックの新歓情報をご確認ください。もちろん、入会を希望される方も当会公式サイト(<https://voitech/>)より受け付けています。



編集：柊

表紙イラスト：ぼさぼさ☆

文：Anthony・柊・ダイソン・ぼさぼさ☆
や☆・taki

二〇二〇年九月八日発行

発行者：東京工業大学アニメ声優研究会
(ボイテック)